



平成30年度第3号
長崎県立ろう学校
自立活動部

3月3日「耳の日」



ロジャーの使用が開始されました

都合により遅れていましたが、補聴援助システム“ロジャー”の使用を三学期から開始しています。現在は、主に小学部の児童が使用していますが、徐々に全員が使用できるようになる予定です。使用している児童に話を聞きますと、「先生の声がきれいに聞こえるようになった」とか「よく聞こえる」といった感想を聞くことができました。ロジャーの最大の特徴である、「距離や雑音の影響を受けずに音声を聞くことができる」が発揮されているのではないかと思います。今後も多くの生徒にロジャーを活用してもらい、よく聞こえる状態を体験してほしいと思います。



さて、皆さんは教室の入り口に二学期には無かったものが設置してあることに気付いているでしょうか。設置されているものは“ウォールパイロット”と言います。これもロジャーを使用するための機械なのですが、どんな役割があるかというと…受信機のチャンネルを自動的に変更してくれる機械です。今まで使用していたFMの場合は、マイクを持ちだしたり、チャンネルを移動先の教室のものに変更したりする必要がありましたが、ウォールパイロットの設置してある教室に移動する場合は、割り振られたマイクがあるので持ち出さなくてよく、機械の近くを通るだけでチャンネルを自動的に切り替えることができます。チャンネルが切り替わる際には、補聴器や人工内耳から“ピポッ”っと音が聞こえるので、その音でチャンネルが切り替わったかが分かります。元の教室に戻るときも同じように、ウォールパイロットの近くを通るだけでチャンネルが切り替わります。

ウォールパイロットは、各学部の教室をはじめ、音楽室や理科室、体育館にも設置しています。積極的に活用して、聞きやすい環境の中で楽しく授業を受けましょう。

インプラントの内部^{はそん}破損について



【事例】A君は、友人とふざけあっている内に転んでしまい、机で頭を打ってしまいました。ぶつけたところは、たんこぶができましたが、その他に目立った怪我はありませんでした。

しかし翌日、人工内耳を装着すると、なんと…何も聞こえないではありませんか。その後、聴能室で人工内耳のチェックをしてもらいましたが、機器に異常はありませんでした。しかし、昨日の出来事を話すと、「ぶつけた場所にある頭の中の機械が壊れているかもしれない」と言われ、病院の受診を勧められました。後日、病院を受診すると、「外側の機器に問題はないが、頭の中に埋め込んでいるインプラントが破損している」とのことで、「再手術が必要」と言われてしまいました。

このようなことにならないために、

- ・人工内耳の場合は、埋め込んでいる部分をぶつけると破損する可能性がある

あるので、頭を堅いもの（机や椅子など）で打ったり、

衝撃を受けるようなスポーツをしない！

ようにしましょう。



《冬の補聴器・人工内耳は注意しましょう！》

- 結露…冬場は外気との温度差が大きいので、結露が生じやすくなります。補聴器が聞こえないと思ったときは、まずは電池の確認をしますが、チューブに水滴が入っていないのかも確かめてください。チューブの中に少しでも水滴があると、音は出なくなるので、もし水滴が入っていたらこよりなどを使い吸い取ってください。
- 熱…補聴器は熱に弱いので、ストーブの近くなど高温になるところには置かないようにしましょう。
- 静電気…冬は空気が乾燥するため静電気が起きやすい状態になります。静電気で人工内耳のマップがとんでしまうことがあり、そうすると再度、病院での調整が必要になります。また、補聴器も人工内耳と同様に「精密機械」なので、静電気で壊れることがあります。プラスチック製の滑り台や人工芝の草スキーは静電気が起きやすいので、補聴器や人工内耳を外してから遊びましょう。